

【目次】

1. はじめに

2. 現状分析

- 1) 高齢者の現状
- 2) 高齢者を取り巻く環境

3. 課 題

- 1) 行政の課題
- 2) 地域の課題

4. 提 言

「高齢者を包括的に見守る総合的なネットワーク『もやい』の構築」

- 1) 自治体と地域をつなぐ総合的ネットワーク機能の強化
—情報の共有化—
- 2) 元気な高齢者～潜在的なマンパワーを「担い手」に～
- 3) 場所によるネットワークの強化

5. おわりに

提言の要約

高齢者を包括的に見守る総合的なネットワーク『もやい』の構築

現状

- K市は、現在人口51,757人、高齢者人口14,037人、高齢化率27.1%、と急速に高齢化が進んでいるまちである。しかし、約8割方が元気で、その中の3割は市民活動や団体活動に参加しているが、残りの7割の元気な高齢者の方も、何かできることがあるはずだと思っている。
- 一人暮らしの高齢者が増え、また地域のつながりが希薄となっている現在、高齢者を取り巻く孤立死などの問題が表面化している。

目標

元気な高齢者の力を活用して、総合的かつ細かなネットワークを構築し、安心して高齢者が暮らせる地域づくりを推進する。

従来からある老人クラブなどの地域組織や既存のネットワークに加え、地域包括支援センターなどの行政側の組織と各団体に所属しない個人の力を合わせ、安心して暮らせる地域づくりをするために、提言1から提言3を実施する。

提言

高齢者を包括的に見守る総合的なネットワーク体制『もやい』の構築

提言1

自治体と地域をつなぐ
総合的なネットワーク
機能の強化

提言2

元気な高齢者
～潜在的なマンパワー
を担い手に～

提言3

場所による
ネットワークの強化

施策

- ・地域にある福祉関係ネットワーク、「自治会」などの地域組織、農協などの事業者や行政を縦と横のつながりで繋ぎ、総合的なネットワークを構築する。
- ・その総括組織として高齢者活動支援センター（『もやいセンター』）を設置する。

- ・ケアに従事する人材の不足や労働人口の減少傾向に対して、元気な高齢者を労働力資源として活用する。
- ・地域の中には、困っている人に手助けをしないと考える高齢者が多く存在する。その人たちに高齢者活動支援センターに登録してもらい、日常生活上の世話の担い手として活動してもらおう。

- ・身近な地区公民館を母体にした交流の場（『もやい所』）を設けることにより、高齢者のみならず地域の人たちが自由に集い情報交換を行うことで、希薄になりがちな地域の繋がりをつくることによって孤立化を防ぐ。